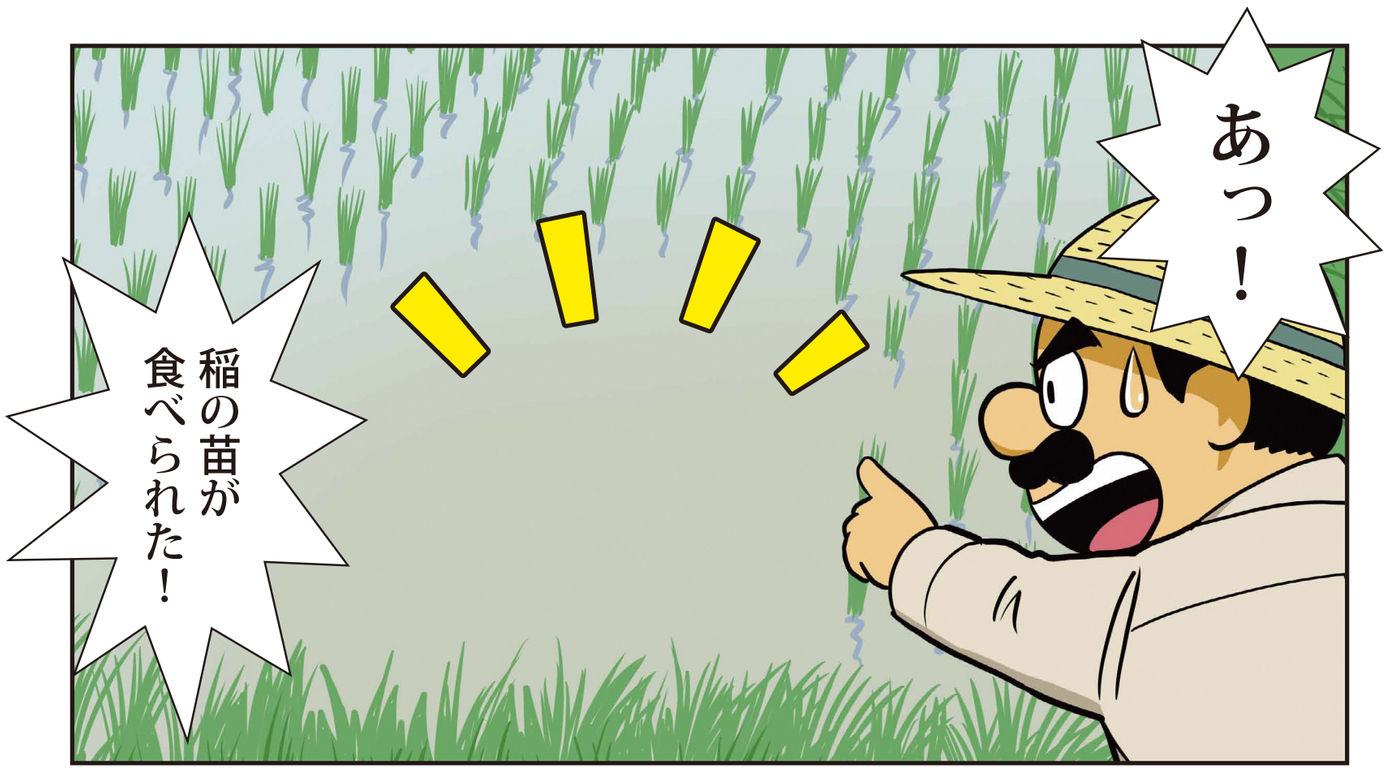
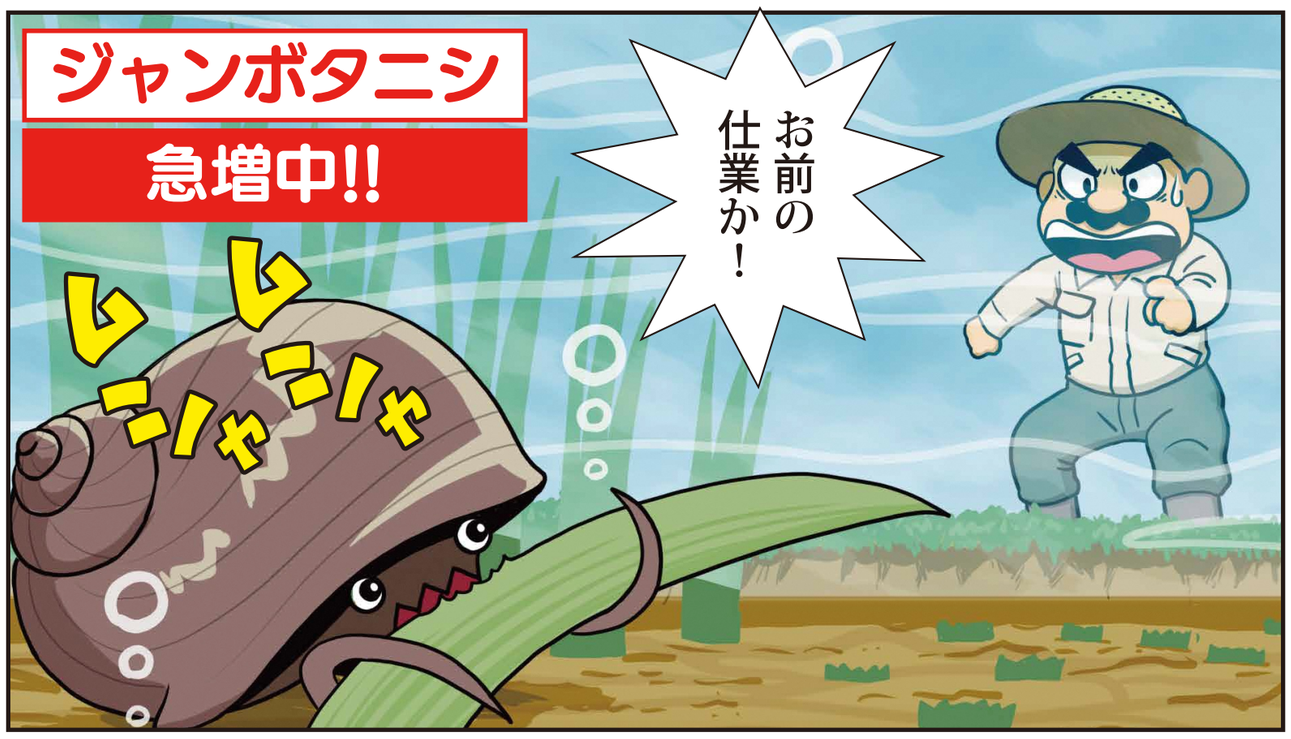
2026年版

ジャンボタニシ被害と発生の拡大防止

入れない・食べさせない・増やさない！



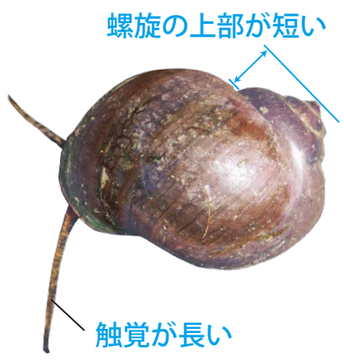


ジャンボタニシ（スクミリンゴガイ）とは



スクリミンゴガイ（千葉県 web サイトより）　マルタニシ（千葉県 web サイトより）　ヒメタニシ

南米原産の淡水巻貝で、養殖用に海外から導入されたものが野生化し、イネを食害するようになった。
長い触覚と濃いピンク色の卵塊が特徴。
成員の大きさは２～７ｃｍ。
他のタニシ類に比較して、螺旋上部の長さが短く、殻径と殻高がほぼ同じ。





ジャンボタニシの卵

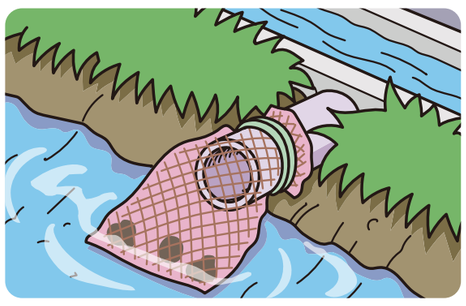
鳥取県の発生状況

- 発生地域は県中部の平坦地。平成初期に野生化および水稲での食害を確認。平成27年頃から食害被害が深刻化。
- その後、生息域が徐々に拡大し、令和２年に食害被害の面積が急増。
- 現在は防除の実施によって被害面積は減っているが、生息域は広がっている。

ジャンボタニシ対策

入れない

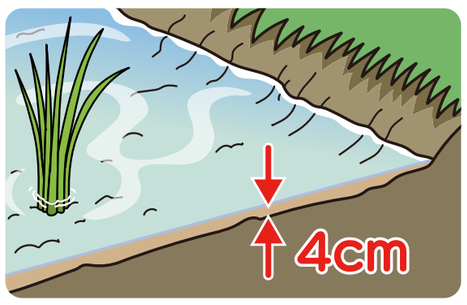
①防止網



水路から水田に入らないよう水口にネットや金網を設置。

食べさせない

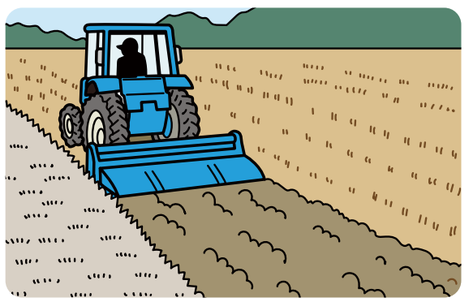
①浅水管理



田植え後約３週間、水深は約４cm 以下を目安にする。ほ場の均平化が有効。

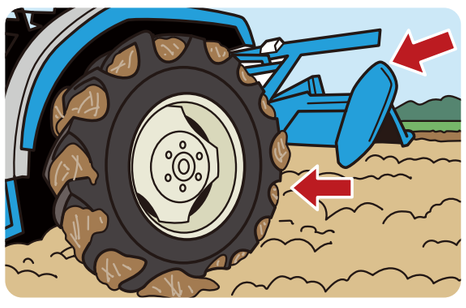
増やさない

①秋～冬に耕うん



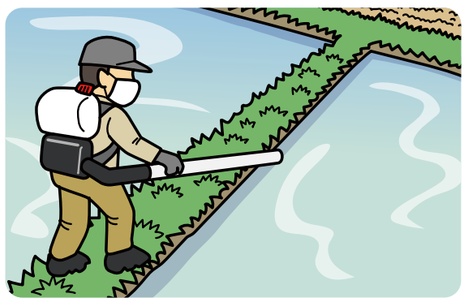
高回転・低速で耕うんし、貝を破壊したり、寒さにあてて凍死させる。

②農機の洗浄



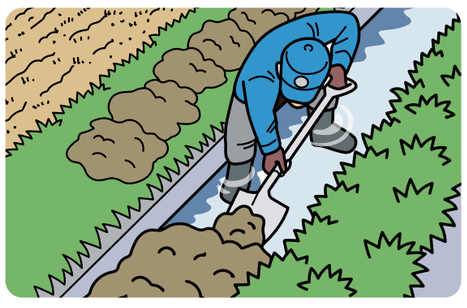
未発生地区に入れないように発生地区で使用した農業機械の足回りや、アタッチメントの泥を落とす。

②農薬散布



浅水管理で防ぎきれない場合は地域に適した登録農薬を散布。

②水路の泥上げ



自分や、隣人の田んぼに入れないため、地域一帯で行う。

ジャンボタニシの被害と特徴

田植え後、約３週間までの柔らかく小さな苗を好んで食害する。水深が深い部分で食害されやすく、激しく食べられた場合はイネの株がなくなる。



生態の特徴

- 水深が深い（５センチ以上）ほど活動が活発化。
- 繁殖力が強く、年間産卵数は3,000個以上。
- 夏季に生まれた貝がそのまま土中で越冬する。越冬個体は、翌年春に水田への水が入ると活動を再開する。
- 乾燥には強いが、耐寒性は高くない。

ジャンボタニシ情報はこちら

鳥取県病害虫防除所 HP
https://www.pref.tottori.lg.jp/boujosyo/

ご相談はお近くのJA、市町か農業改良普及所へ

倉吉市、湯梨浜町、北栄町、JA鳥取中央
鳥取県（中部総合事務所農林局、病害虫防除所、生産振興課）